

建築基礎の地盤改良工事に最適！
定置式コンクリートポンプ「スクイーズクリート® PQ30-22MT」を発売

極東開発工業株式会社（本社：兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号 社長：高橋 和也 特装車事業、環境事業、パーキング事業）はこのたび、建築基礎の地盤改良工事に最適な定置式コンクリートポンプ「スクイーズクリートPQ30-22MT」を開発し、平成26年11月27日より発売いたします。

地盤改良工事は、セメント系硬化剤などを地盤に注入し建築基礎地盤の強度を確保するのが一般的な工法で、2011年に発生した東日本大震災の際、特に液状化に対しては地盤改良された部分の耐性がほぼ100%であったことなどから、昨今施工例が増え注目が高まっています。

今回の新製品は、地盤改良工事の主要工法で、地盤をドリルで掘削して軟弱地盤を薬液（硬化剤）と混合して強化する方法である、TRD工法（※1）およびCDM工法（※2）施工時の地盤への薬液注入に最適な仕様となっています。

また、ポンピングチューブ（圧送用チューブ）に、薬液圧送時の脈動を抑えるテーパチューブの採用や、チューブが破損した場合にポンプの運転を自動停止するパンクセンサー、常にドラム内部を最適な真空状態を保つことでチューブの復元を助け、長寿命化に貢献する真空ポンプ自動運転機能の搭載など、使い勝手と安全性にも配慮している他、インバーター制御により最適な吐出量の調整と過負荷検出時の自動制御を可能とし、省エネ性も向上させています。

極東開発グループでは、今後とも社会のニーズにマッチした新製品を開発してまいります。

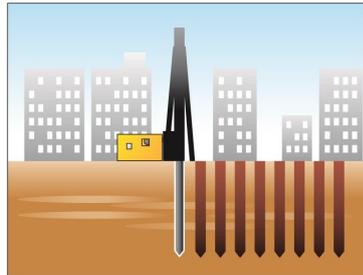


「スクイーズクリート PQ30-22MT」

「スクイーズクリーン® PQ30-22MT」の特徴

1. 地盤改良工事における薬液注入に最適な仕様

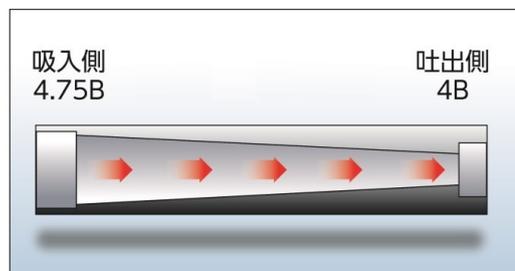
コンクリートポンプ車のトップメーカーである当社が長年に亘って蓄積した豊富な実績と技術力により、昨今施工件数が高まっている地盤改良工事における薬液の注入に最適な吐出量(30m³/h)および吐出圧(2MPa)とし、薬液管理の確実化と容易性を実現しました。薬液の注入と泥水の排出を効率よく行うことが可能です。



地盤改良工事現場イメージ

2. 使い勝手と安全性に配慮した充実の機能

ポンピングチューブ（圧送用チューブ）に、筒壁を吐出側に向かって先細の形状とすることで、流体が加圧され逆流を防止し、薬液圧送時の脈動を抑えるテーパチューブを採用しています。また、チューブが破損した場合にポンプの運転を自動停止するパンクセンサーや、ドラム内部を常に最適な真空状態に保つことでチューブの復元を助け、長寿命化に貢献する真空ポンプ自動運転機能の搭載など、現場での使い勝手と安全性に十分配慮した充実の機能を装備しました。



テーパチューブ

3. インバーター制御で吐出量の最適化と省エネ性向上を実現

インバーター制御を採用したことにより、最適な吐出量の調整および過負荷検出時の自動制御を行うことが可能となりました。また、省エネ性も向上させています。

- 4. 販売価格 1,023万円(希望小売価格、消費税抜き)
- 5. 販売目標台数 30台 (平成28年3月期)

【ご参考】

※1. TRD工法

チェーンソー型のカッターを装着したベースマシンを地盤に挿入し、横方向に移動させて、溝の掘削と硬化剤の注入および地盤との攪拌混合を行い、地中に連続した壁を造成する工法で、止水性に非常に優れている。1994年から本格的稼働され、その施工件数は現在増加の一途を辿っている。

※2. CDM工法

スラリー（泥状）化したセメント系硬化材を軟弱地盤に注入し、地盤とともに専用の機械で攪拌混合することにより化学的に固化する工法で、実用化以来33年の歴史があり、海上・陸上工事あわせて全国で4,500件以上、総処理土量 7,200万m³以上の施工実績がある。

<広報お問合せ先>

極東開発工業株式会社 経営企画部

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

電話 (0798) 66-1500 FAX (0798) 66-8146

ホームページアドレス <http://www.kyokuto.com/>

※製品のご商談に関するお問い合わせにつきましては、お近くの営業所までご連絡いただきますようお願い申し上げます。